



洋書輸入協会会報

Vol. 27 No. 2 (通巻309号) 1993年2月

新年懇親会

平成5年の新春賀詞交換会は、1月7日新宿のセンチュリーハイアットで開催された。吉本文化厚生委員長(紀伊國屋書店)より「底の見えぬ不況の新春を迎えたが、この不況時こそ我が業界にまつわる積年の弊や直面する内外の懸案を解決する好機でもある。一致団結して頑張らしましょう。」の開会の辞で開宴。

海老原理事長(丸善会長)は、「書籍雑誌ビジネスは既に成熟市場の峠を越し、かてて加えて外資及び同業間の過当競争で誠に厳しい状況下にある、この状況改善も必要であるが、ニューメディア市場の拡大も又重要である。業界あげて努力したい」とご挨拶。

ついで松原紀伊國屋書店社長より、「我が業界の問題点は既にはっきりしている。議論の段階を最早こえ誰がやるかである。」とのご挨拶があり、つづいて乾杯の音頭をお願いし賀詞交換に入る。

昨年の同業の倒産(3件)、海外出版社の変貌、委員会の再編、今年の経営見通し等々、話題は尽きないのである。例年7時過ぎには半減する出席者も引きもやらず7時40分。渡辺副委員長(洋販社長)に閉会のご挨拶と

手ジメをお願いして閉会とした。

ところで、永年の東京プリンスホテルの会場を今年はセンチュリーハイアットに変更したのは別に不満あつてのことではない。要するに我が業界に変化を求めたものである。今日語で云えば改革であろう。委員長を20年30年やればマンネリ化しない方がおかしい。また業界のインフラを改革せず外なる因を内部に求めて何の効用があるだろうか。同業アウトサイダーは会員以上存在しているのである。最も求められているものはこの改革のリーダーシップなのである。

新年の初行事はこの新春懇親会。隗より始めよである。

最後になりましたが、年賀でご多用にもかかわらず多数ご出席の皆さん(83社228人)、無理なお願いにもかかわらず期待通りの設営をしてくださったセンチュリーハイアットの関係者の皆さん、元気潑刺余人に替えがたい司会進行をされた鶴副委員長(東亜ブック社長)、準備受付に手数を煩わせた文化厚生委員の皆さんに厚く御礼申し上げます。

(文化厚生委員長 吉本明城)(紀伊國屋書店)

新年懇親会	1	文化厚生委員会だより	3	東京の坂と橋と文明開化(82)	7
理事会報告	2	洋書輸入協会史(77)	4	広 告	8
うちの会社	3	海外ニュース	6		



賀詞交歓風景 (定点撮影 会報委員会提供)

理事会報告

12月21日(月)

(一)11月分収支計算・予算対比表

12月18日(金)の総務委員会での審議にもとづく総務委員長の報告を承認した。

(二)関西支部解散の件

先に理事会で審議した支部解散に関する結論の通知に対し関西支部長の丹羽氏より支部として全面的に承知した旨返信あり、同日支部残余金の入金があった。

これにより、1992年9月25日付関西支部解散を正式に承認した。

(三)雑誌・NM委員会、及び小売専門委員会の活動並びに

事業計画

雑誌・NM委員会では2月に東大総合図書館の浅野部長の講演会、3月にニューメディア・トレードショウを予定、小売専門委員会は今後の会議のテーマ等についてそれぞれの委員長より報告があった。

(四)協会新規加入申請

予て入会希望のあった(株)VCHと国連大学出版局の加入を承認した。

(五)定時総会の会場について

A一例会年どうり都内開催、B一親睦旅行会を兼ねた温泉地での開催の2案に意見が割れたため総務委員会に決定を委嘱した。

《医歯薬文献を求めてひたすら41年》

株式会社 獨亜書院

“君の処は英語の本を扱っているのかい？”と大昔のことだが時折笑い話に言われたこともありました。それもその筈……当社は第一次大戦後神戸で創業70数年になります。当時は大部分が欧州系で特に医学歯学関係はドイツの文献が圧倒的に多く会社の名前からして間違えられそうな尤もな話ではありますが今更どうしようもありません。昭和2桁に入り国際情勢の悪化から戦争へ突入し輸入停止で已むなく業務も休止させられましたが第二次大戦後1952年(昭和27年)に MITI の自動承認制の施行と同時に大阪にて業務を再開し今年で丁度41年を迎えます。開業当時の10年位の間は外貨不足のため輸入代金決済にも事欠く始末で外国貿易

管理法や外国為替管理法等の諸法令の下に身動きのとれない環境下で苦しい営業活動の毎日でした。しかし乍ら反面では現在と違って為替は完全な固定相場でありこの面での苛々から解放されていたことは或は救いであつたのかもしれませんが。ともあれ昨今の目まぐるしいメディアの発展と変貌は驚嘆の一語に盡きることを思い知られています。尚又現在の洋書業界を取り巻く環境は年を追う毎に厳しく外資系企業の参入や入札形式の採用による利潤低下が極めて深刻化しつつあります昨今協会の一員としてマーケットの拡大に一層の努力を払いたいと念じて居ります。

以上

文化厚生委員会だより

第66回72会ゴルフコンペ

1992年12月17日(休)／於 高根 CC

冬とは思えない暖かい晴天の下、第66回大会には総勢27名のゴルフ仲間が集まりました。当日の天気、パートナー、フェアウェイ、グリーン全てゴルフコンディションには問題はなかったのですが、グリーンのピンポジションが難しく、パターには皆さん苦労された様です。特に東4番140ヤードのショートホールは難物で、初参加の紀伊國屋塩川泰治さんは1オンしながら7パット、泣けてきます。2人目の初参加、丸善川野順章さんは、旧年のライバル紀伊國屋吉本明城さんのプレッシャーにも負けずに互角の勝負をされました。ベーカーアンドテラーの後藤明美さんはお昼のパーティーで文化厚生委員としてのコンパニオン精神を発揮されたせいでしょうか、午後の東54番では遠慮気味。郁文堂の大井敏夫さんは、とても70過ぎとは思えないパワーで若者に負けず8位と健闘されました。名著普及会の小関妙子さんは安定した7位、次回は入賞期待出来そうです。6位には第三書房

の藤井嘉明さんが入賞されました。

優勝から5位までの成績は下記の通りですが、今大会も又、前回同様ユサコ・丸善組一色となりました。

残念なのは3位の中山さん、連続2 OB で優勝を逃しました。

今回は3月18日狭山 CC で開催。UPS 斉藤純生さん15年前の横浜 CC 以来のご参加予定です。

		(GROSS)	(NET)
優 勝	池 田 (ユサコ)	49・45	77
準優勝	大 野 (丸善 OB)	44・41	79
3 位	中 山 (丸善)	51・51	80
4 位	竹 内 (八重州ブック)	49・43	82
5 位	和 田 (ユサコ)	55・47	83
(東亜ブック・鶴)			



洋書輸入協会史 (77)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

87 通関の手続き簡素化

87.1 航空郵便物通関の省力

昭和36 (1961) 年4月27日の理事会で、羽田の税関から通知されたことを検討したが、異論が無いので、これを翌28日付JBIA No. 128で会員に通知した。内容は次の通り。

記

従来、航空便による輸入書籍は、羽田税関外国郵便課にて記録の上、通知書を発行し、それに基づいて通関手続をしておりましたが、この度同税関より、5月1日以降通知書の発行を廃止する旨通知がありました。従って東京外郵出張所と同様に、現品および送状到着後税関の通知書なしに通関の手続をして頂くことになりました。

この場合、税関の要望により、確かに現品が到着した旨の誓約として、輸入報告書の最下段に「上記の通り相違ありません」と一筆付け加える様お願い致します。なお手続書類は、切手付きの返信用封筒同封の上郵送して差し支えありません。(以上)

この件は、航空郵便物が次第に増大している情勢に対応したもので、羽田税関側の省力と、業者側の省力との双方を含んでいる。即ち税関側は一々通知書を発送する手間が省け、業者側は通知を受けた上で、羽田まで出掛ける手間が省かれ、書類の郵送で済むようになった。なお理事会側は、航空便の通関も東京外郵出張所で出来るよう申し入れたいとしている。

87.2 郵便物一個当りの価格36,000円以下は、統計資料作製のための書類提出が不要となる。

昭和36 ('61) 年9月29日付のJBIA No. 142では、輸入統計資料作製のための書類提出を、36,000円以下の小額貨物は不要になったとして、通関手続きが簡素化された旨を次のように会員に知らせている。

記

郵便物の輸入通関手続について

今般、東京税関東京外郵出張所より、輸入通関手続の提出書類について下記の通り改め、10月1日より実施するよう指示がありましたので、お知らせ致します。

(一) 郵便物1個 (1包) 当りの平均C. I. F.価格が36,000

円 (100ドル相当額) 以下の場合には、“Report of Import Parcel Post” の提出は不要とする。

(二) その場合、確認を容易にするため、「輸入報告書」正副のC.I.F.価格の円貨記入の際、カッコをして郵便物1個当りの平均単価を円貨で記入すること。

(三) 1個のC. I. F.価格が36,000円をこえる場合は従来通りです。

(四) 羽田税関支署外国郵便課にて取扱います航空便についても同様です。(以上)

なお、この通関手続き簡素化は、後に小額貨物の上限額が36,000円から10万円、20万円と逐次引き上げられていく。その分提出書類の数が減って通関担当者は大変助かるが、一面で書籍、雑誌には小額で送られてくるものが多く、通関統計上の洩れが増えて正確さを欠いてくる欠点がある。省力化と統計上の正確さとは両立しないものという感を深くする。

87.3 通関簡素化が部分的に実施される

昭和37 ('92) 年2月23日の理事会では、東京税関から非公式に提案のあった通関手続き簡素化の案を検討した。なおその折にも、簡素化は洋書輸入協会の会員に限りたい、ただしもし間違いがあったら協会に責任を負って貰う旨を、極めて婉曲な言いまわしで示唆された由。洋書輸入協会会員であるメリットはこのようなところにも存在する故に、理事会は積極的にその責任を引き受けようという雰囲気であった。

これらの簡素化案は、翌月の3月20日付のJBIA No. 148で実施の運びとなった旨が、会員に次のように通知された。

記

この度、東京税関東京外郵出張所並びに羽田税関支署外国郵便課より、今後の提出書類、方法を別紙の通り改め、即日実施するよう御指示がありました。

(一) 東京税関東京外郵出張所における事後通関

従来は申告一件ごとに送状、ライセンス、輸入報告書 (正副) などを組にして提出しておりましたが、今後は

申告が2件以上の場合下記の通りとします。

……以下略

(二) 羽田税関支署外国郵便課における事後通関

従来の書類の他に同封の整理伝票を1件ごとに1通記入の上提出して下さい。申告書類は郵送して差支えありませんが、下記の事項を御注意下さい。

……以下略 (以上)

これらを見ると、簡素化といっても僅かばかりで、役所の手続き簡素化の限界を感じさせるが、それにしても簡素化に向って努力が為されていることを評価すべきであろう。

88 内・外国の郵便料・運賃値上げと、和・洋書業界の対応

88.1 内・外国の郵便料・運賃の相次ぐ値上げ

先ず昭和36(’61)年6月1日より、国内の郵便料が値上げとなった。

次に同年8月17日付の日本経済新聞に

9月1日より 極東・欧州航路	10%
10月1日より 豪州航路	5%
10月1日より インド・パキスタン航路	10%
11月1日より 北米航路	10%

の運賃引き上げが掲載されている。

また同年9月11日付の朝日新聞夕刊には、日本の郵政省が、10月1日から外国郵便料金を平均3割前後値上げすることを決めた旨発表があったと報ぜられている。

9月の下旬に入ると、米国出版社より、来年1月から米国の郵便料が値上げされるとの情報がいった。もっともこの種の外国の情報は、実際に外国政府の発表があったはじめて確実になるもので、今回の値上げ情報も翌年1～3月の間には何の発表もなされていない。

88.2 和書業界の反応

昭和36(’61)年10月28日の理事会では、次のようなことが報告された。即ち6月1日からの国内郵送料値上げで、印刷物の郵送料(第5種)は、従来100gまで8円であったものが、50gまでが10円となり、実に2割5分の値上げとなっている。和書の業界はこれに対し、出版物郵便問題対策協議会を設置し対策を協議した結果、主なメンバーで郵政省の迫水氏に会い、この値上げで和書の業務に支障を来している旨を陳情した。その席上で協議会

からは、第5種の大幅値上げ(2割5分)を、せめて重量だけでも従来通りの100g単位にして貰いたい、或いは第6種のようなものを設けて出版物を別扱いにして貰いたいなどの提案がなされ、迫水氏は第6種の案に興味を示した由。

なお協議会の提案の根拠には、全国2,917町村のうち、49.9%の1,456町村には書店がなく、出版社から読者へ郵送されていて、それが年間1,500万冊に達しているが、それは第5種郵便物の全体から見ると0.01%にしか過ぎず、郵便料収入の上では微々たる存在で、従って第5種のうち出版物の部分のみを値下げしても全体への影響はないというところにある模様。

88.3 日本書籍出版協会の佐々木事務局長代理との会談

理事会としては、いずれにせよ和書の業界の然るべき人に会い、もっと詳しく話を聞いて判断しようという結論になり、早速手配の結果上記佐々木氏と、10月30日に会うことが出来た。その席上での話は次の通り。

(1) 郵政省への陳情の様子は概略前述の通り。

(2) 郵政省側は、印刷物と書籍・雑誌の区分を明確にする線を業界側で考えてくれといっている。これは郵便局の窓口で、すぐ判定出来る基準である必要がある。

(3) 郵政省側は、6月に料金改正をしたばかりであるので、しかも業界からの要望は値下げであるので、値上げしたばかりのものを値下げするためには、沢山の具合が悪いデータのデータを必要としている由。

(4) 和書の業界としては、政府立法で次の国会に出して貰うぐらいのつもりで陳情を続けている。

88.4 洋書業界としての検討

上記会談で、和書の業界としての動向は良く理解出来たので、洋書の業界としてこの問題を検討してみた。即ち、現状では洋書は、第5種はほとんど使わず、小包を利用している。従って第6種が若し出来ても、あまり影響がないであろう。一方アメリカでは、Book Post という制度があり、3Kg以下を安くしている。この制度の考え方を第6種の中に盛り込めると良いのではないかと。いずれにせよ和書業界の協議会の動向に、今後共注目していく必要があらうと、およそ以上のようなこととなった。

その後も検討を続けた結果を、昭和36(’61)年12月13日の懇談会で報告し、12月20日付のJBIA No. 145に次のように掲載している。

国内郵便料金改訂に伴う請願

去る6月施行された郵便法の改正、特に第5種の不当な大幅(2.5割)値上げは、出版界に相当な影響を与えるものとして、日本書籍出版協会が主導してこれが是正の運動をし、第6種の設定乃至従来並の100グラム単位とする様請願しておりますので、当協会でも同会と折衝し、洋書にも均等出来得る様連繫をとっておりますので、御報告致します。(以上) (続く)

海外ニュース

'92年の出版業界をふりかえって —ブックセラー誌(英国)1~12月号のハイライト—

'92年の書籍出版・販売業界を一言で言い表すと“どん底”であったとマクミラン社のバイアム=ショウ氏はコメントしている。特に上半期は、小売書店から出版社への支払い遅延の傾向と返本の洪水に特徴づけられる。

固定化した市場に対して、新たな販売チャンネルの開拓も本格化した。学校への販売は、ますます多くの出版社が教科書供給業者を通さない直販を始めたほか、ブック・ピープル社のような訪問販売、スーパーマーケットでの販売も確実に増加し、伝統ある同業者の間には動揺もみられる。

出版社側と書店側双方からは、利益拡大のための新しい方法も試みられている。大手書店チェーンのW. H. スミスがハード・カバーの小説本の売上げが困難なことからペーパー・バック・オリジナルの販売に力を入れ始めたことも、そのひとつである。また、同じく大手のチェーン書店ウォーターストーンは、深刻化する返本問題の解決策として、'92年春に出版社側にファーム・セールの方法を提案している。ウォーターストーンの意図は、注文数を抑えることで返本を防ぐことにあるが、その効果はまだ予測できない。

ネット・ブック・アグリーメント(NBA)に対しては、ペントスが相変わらず攻撃を続けている。同社は、リード・コンシューマー・ボックスが自社の書籍について、NBAを原則として廃止したことからの、'92年の話題の新刊書、マドンナの“Sex”も£25から£20へ値下げして販売した。

'92年も出版社の吸収合併が多い年となったが、リード

出版グループとエルゼビアの合併は、最大級のものとして記憶に新しい。

—The bookseller '92年12月18・25日号より—

—出版物へのVAT課税 英国出版業界で反対キャンペーン—

英国のメジャー首相は、非課税の対象となっていた書籍や新聞雑誌、食料品、児童服などの品目に17.5~20%のVAT(付加価値税)を新たに課するという大蔵省の提案に対し、消費者の信用を失い景気回復を遅らせるものとして、これまで否定的な見解を示してきた。ところがダウニングストリートは今週「熟慮の結果」として同首相に導入の意志があることを報じた。どうやらこの考えは先週になって初めて出てきたものでなく、昨年4月の総選挙前からあったらしい。

2億5千万ポンドの税収が見込めるため、大蔵省の役人は出版物へのVAT課税を支持している。しかし書店業界では公約違反のこうした動きを極めて深刻に受け止めている。

PPA(英国定期刊行物出版協会)の試算では、1,000を超える雑誌が廃刊に追い込まれ、多くの失業者を出すとしている。また書籍をこれ以上に高くすることは教育界にも徐々にダメージを与えるとも見られている。BA(英国書店協会)のHitchin会長も、いかなる課税も書籍の持つ可能性を減じさせ、思想の湧出を妨げることになると警告する。さらに英国の出版業界全体のビジネスは大きな石油会社一社分よりも小さくなることが懸念され、課税によって新たに得られる税収入は微々たるものだが、そのもたらす結果は甚大なるものがあるだろうとしている。

出版業界での反発が強まる中で、英国書店協会のGodfray氏は、流言や情報の混乱が事態の不透明さを助長しているとした上で、書籍に対する課税反対のキャンペーンを、その導入廃止が確定するまで続けなければならないと述べている。またNBC(英国書籍委員会)も「読書への課税反対」委員会を再編成し、地方の議員や図書館、学校関係者、さらには導入に反対する勢力の組織化を進めている。

(The Book Seller'1993.1.15より)

本郷界隈の坂〔3〕 無縁坂とコンドル(3)

丸善・本の図書館 鈴木 陽二

明治政府は、幕府が欧米諸国と締結した不平等条約の改正を目指して、鹿鳴館のパーティー外交に続いて欧米の文明先進国に肩を並べる近代的洋風都市の建設計画を組上に乗せることになった。議事堂を中心とする官庁集中の新都市造りを推進するため、明治19年にその担当機構として内閣に臨時建築局を設置し、総裁に外務大臣の井上馨、副総裁にはかつて鬼の土木県令として辣腕をふるった三島通庸警視總監を任命する。このプロジェクトには鹿鳴館を設計したコンドルも参画して彼自身官庁集中計画の設計図を引くのであるが、ゴシックやロマネスク様式を基調とする学園都市風の都市計画は、パリやベルリンの絢爛たるバロック都市に憧れる伊藤博文首相を始め政府要人の容認するところとならず、事実上コンドルは切り捨てられる。そして彼らが心酔する新興プロイセンに範をとるべく、ドイツ政府の推薦でエンデ=ベックマン建築事務所(Ende & Bockmann Atlier)を招聘して計画に当たらせた。このプロジェクト実現へ向けての政府の意気込みは並々ならぬもので、建築技術の習得のために建築家や職人など20名がベルリンに留学し、またドイツからも各種の技術者が12名も来日する。こうして想像を絶する、夢のような計画がスタートするのであるが、エンデ=ベックマンの構想は日比谷を中心として霞ヶ関から臨海地帯まで全体的に改造するという広大なもので、このまま完成すれば世界でも比類のないバロック都市が出現するはずであった。この創案の詳細をここで記すことはできないが、結局この計画は一部の建築物を除いて実現に至らなかった。当時の財政状態を含めた国力、日比谷の地盤の弱さから大建築が無理であったこと、なによりも井上馨の失脚と、それに追い打ちをかけるように表面化した政府の都市計画部局間の抗争と臨時建築局の解散によって白紙に戻される。そして再びコンドルが起用されて計画の見直しが行われるが、わずかに司法省と裁判所(両方ともエンデ=ベックマン設計)の建築が継続され、コンドルも海軍省の建設を手懸けただけで終わる。こうして、国家の総力を挙げて取り組んだ大プロジェクトはついに去ったが、その夢の遺構ともいえる司法省(現在の法務省)の赤レンガが、今、はしなくも皇居の

緑と調和して美しい景観を見せている。

コンドルが政府関係の仕事を離れてから、設計事務所を開設して次々と優れた建築を生み出したことは前回列記したが、その中で明治29年に竣工した茅町(現在の湯島)の岩崎久弥邸は、17世紀英国のジャコビアン様式を基調にした面積160余坪の、三菱の頭主の邸宅にふさわしい堂々たる木造建造物で、彼の傑作の一つである。岩崎家が手に入れたこの敷地は、江戸時代に越後高田藩榊原家の中屋敷のあった所で、維新後は西郷隆盛の懐刀桐野利秋少将の屋敷であった。ちなみに彼は薩摩藩士中村半次郎で幕末には人斬り半次郎と呼ばれて幕臣に恐れられた示現流の剣客であった。この邸宅は戦後財産税の物納によって政府のものとなり、占領中には米軍のキャンオン機関が置かれ、昭和26年に起きたスパイ事件「鹿内巨事件」の舞台となった所として有名である。

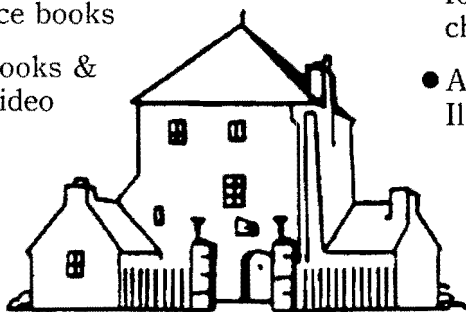
学業を終えたばかりの新進気鋭のコンドルが、英国での囑目された将来をなげうち、招聘に応じて極東の小国日本にやって来たのは日本美術に魅せられてのことであった。彼は反骨の画家河鍋暁斎に師事して暁英と号し、日本画に卓越した力を示したばかりではなく、日本文化に広く通暁する。“Landscape Gardening in Japan”は彼の日本文化に対する理解の深さを示す重要な著作であるが、この本は現在でもアメリカの“Dover Pub.”から販売されている。また、彼の晩年の作品である旧古河邸(大正6年竣工、北区に現存)は石造りの洋館の二階を和室とした異色の構造であるが、日本家屋に造詣の深い見事な作であるという。日本舞踊を習った婦人と結婚し、日本での生活を身につけてすっかり日本人となったコンドルは、大正9年6月に40年を越える異国での生涯を終えて永眠する。建築学会が彼の功績を賞し功労者として表彰したわずか2ヵ月後であった。彼の墓は今、音羽の護国寺に見ることができる。

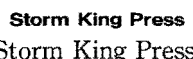
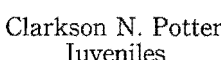
彼は日本の近代建築を担った多くの人材を育成し、生涯かけて実現した75件の作品は総て日本においてであり、そのさまざまな様式の建造物が日本の近代建築確立の上に与えた影響は計り知れないものであった。コンドルは正に「近代日本を設計した建築家」であった。

RANDOM HOUSE

America's Largest Publisher of Trade and General Reference Books

- Games & Puzzles
- Dictionaries & Reference books
- Audio books & Home video
- Fiction, Literature Poetry & Nonfiction for adults and children
- Artbooks & Illustrated books



	 Fodor's Travel Guides	
	 Sierra Club Books	
	 Times Books	 Panache Press
	 Vintage Books	 Storm King Press Storm King Press
 Alfred A. Knopf	 Shambhala	 Flashmaps
 Pantheon Books	 Villard Books	 Crown Juveniles
 Schocken Books	 David McKay	 Clarkson N. Potter Juveniles

For information, please contact RANDOM HOUSE TOKYO REPRESENTATIVE OFFICE
Yohan Building, 14-9 Okubo 3-chome, Shinjuku-ku, Tokyo 169 Tel. 03-3208-0186

RANDOM HOUSE, INC.

201 EAST 50TH STREET, NEW YORK, N.Y. 10022
TELEPHONE 212 572-2311 TELEX: 126575 RANDOM NYK
FAX 212 572-6045

1993年2月 通巻第309号 洋書輸入協会 編集者 神田 俊二
103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03) 3271-6901 FAX.(03) 3271-6920